

今週の為替相場見通し(2017年9月19日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		108.05 ~ 111.33	110.83	107.50 ~ 114.50
ユーロ	(ドル)		1.1837 ~ 1.2030	1.1942	1.1700 ~ 1.2100
(1ユーロ=)	(円)		129.90 ~ 133.07	132.41	130.50 ~ 135.00
英ポンド	(ドル)		1.3148 ~ 1.3616	1.3591	1.2800 ~ 1.3050
(1英ポンド=)	(円)	*	142.54 ~ 151.55	150.69	142.00 ~ 145.50
豪ドル	(ドル)		0.7956 ~ 0.8080	0.8003	0.7800 ~ 0.8050
(1豪ドル=)	(円)	*	87.10 ~ 89.27	88.70	87.00 ~ 90.50

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

為替営業第二チーム 坂本 真史

(1)今週の予想レンジ: 107.50 ~ 114.50 円

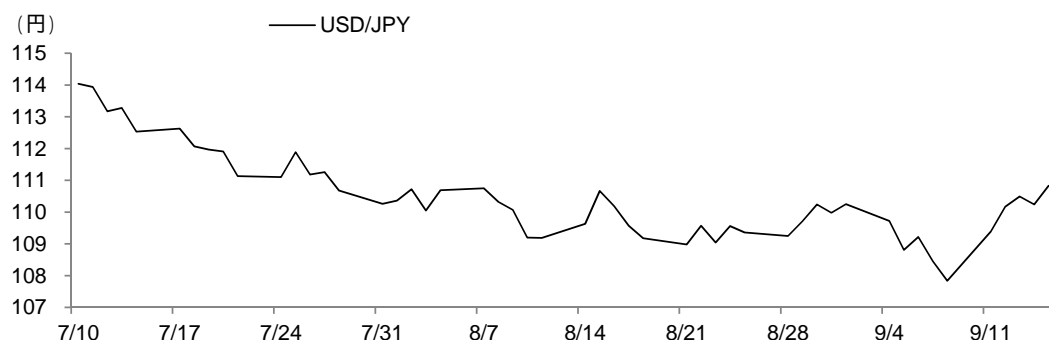
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は堅調に推移した。週初11日は108円台前半でオープン。週安値108.05をつける場面があったものの、北朝鮮が建国記念日の9日にミサイル発射等を行わなかったことやハリケーン「イルマ」の勢力が減衰したことでリスクセンチメントが改善する中、109円台半ばまで上昇。翌12日、ムニューシン米財務長官による「(税制案の)年内成立に大いに期待している。その場合2017年1月1日に遡って適用もあり得る」との発言が伝わり、米株が上昇すると110円台にのせた。週央13日、原油価格が上昇する中、110円台後半まで上伸。翌14日、発表された米8月CPIが予想を上回ったことで米金利が上昇する流れに111円台まで上昇した。週末15日、北朝鮮がミサイルを発射したことが伝わると109.55円まで急落。ただ、事前に北朝鮮でミサイル発射の兆候があると報じられていたことや前回同様のルートであったことから更なる下押しとはならなかった。一方で海外時間にはイングランド銀行(中央銀行、BOE)による利上げ期待からポンドが買い進められてポンド/円も上昇したことに連れ、ドル/円は週高値111.33円まで上昇。結局、110円台後半で越週した。

今週のドル/円相場は、北朝鮮情勢とFOMCを背景として上下に値幅を伴う動きを予想。北朝鮮を巡っては週末には同国の行動を批判する国連安保理声明が採択された他、北朝鮮問題等を協議するため21日(木)に安保理理事国臨時閣僚会合が開催されることとなった。北朝鮮による太平洋上へのミサイル発射や米韓を中心とした北朝鮮への軍事的圧力強化は市場のリスクセンチメントを低下させよう。万一、本邦で大きく人的・物的被害が生じることとなれば、本邦企業による海外資産圧縮の動きから東日本大震災後の相場のようにドル/円は下落するとみる。一方で、被害が生じないとしても高まる地政学リスクの震源に近い円は海外勢を中心に次第に売られ、ドル/円は上昇する可能性があると考え。また、米国では20日(水)にFOMC声明文の発表とイエレンFRB議長の会見が予定されている。今回注目されるのは、ドットチャートの動向だ。残す年内会合は11月と12月の2回だが、市場では後1回の利上げを50%程度しか織り込めていない。ここで利上げ期待を高める内容となるか否かでドル買いドル売りいずれにも進みそうだ。なお、前回7月会合において比較的早期に開始するとされたバランスシート縮小を来月以降実施すると表明されることは大方予想されており、発表されても相場の動因とならないだろう。また、本邦衆院解散総選挙についての影響は安倍首相が帰国する来週以降に持ち越されると考える。

(3)先週までの相場の推移

先週(9/11~9/15)の値動き: 安値 108.05 円 高値 111.33 円 終値 110.83 円



(資料)ブルームバーグ

お客さま各位

ここではレポートの一部をご紹介します。
しています。

レポート全ページをご希望の方は、
お取引いただいているみずほ銀行の
お取扱店、またはお取引担当部まで
お問い合わせください。

以上